

活動報告

2011年

- 4月 ・バイオサイエンス研究科にて遠隔実験支援システム説明会開催
- ・一時託児室「託児室せんたん」内覧会開催



「託児室せんたん」の内覧会を開催しました！

4月に開室された一時託児室「託児室せんたん」の内覧会が4月21日（木）に開催されました。学内関係者7名の方にご参加いただきました。

かわいらしい
お部屋で
子どもが
喜びそう♪



ぜひ
使って
みたい！

今後の活動予定

受験生のためのオープンキャンパスに参加します。

5月28日（土）奈良先端大「受験生のためのオープンキャンパス」にて、参画室では情報科学研究科棟1階L2講義室で「女性研究者になるための相談会」を開催します。時間は午後1時～2時半。詳しくは参画室HPをご覧ください。また、同棟入口付近に広報ブースを設けますので、併せてぜひお越しください。

参画室の役割と活動

男女共同参画室購入書籍とDVD・ビデオの紹介

本学図書館内に男女共同参画室コーナーが設置されています。男女共同参画について、女性の働き方、育児介護についてなどが書かれた書籍や、男性のためのワークライフバランスについての書籍も取り揃え、現在の蔵書は147冊です。（4月1日現在）貸し出しも可能ですので、ぜひ手に取ってみてください。

また、DVDは2枚、ビデオ9本、男女共同参画室内のみでの利用となりますが、ご覧頂くことができます。参画室へもぜひお越しください。

詳しい所蔵内容は、参画室HP (http://www.naist.jp/gender/contents/gender/office_library.html) まで。

本の紹介

女性科学者に一条の光を - 猿橋賞30年の軌跡

著者：女性科学者に明るい未来をの会
出版社：ドメス出版

図書館の男女共同参画室図書コーナーに置いてある本の内容について、ご紹介します。

女性科学者に明るい未来をの会編『女性科学者に一条の光を - 猿橋賞30年の軌跡』（2010年 ドメス出版）です。多くの方がご存じだと思いますが、猿橋賞は、猿橋勝子氏の気象研究所退官時に集まった寄付金を基金として創設された「女性科学者に明るい未来をの会」によって贈呈されます。本学の高橋淑子教授が第30回受賞者になられたのは記憶に新しいことです。

本書では、猿橋勝子氏と同級生によるその人となりの回想や、会の顧問になっておられる先生方による賞の意義などが述べられ、猿橋賞のことがよく理解できるとともに、第30回までの受賞者全員の言葉が載せられ（故人の紹介を含む）、多様な分野の錚々たる女性研究者の声を聞くことができます。様々な研究分野の第一人者である女性研究者による研究内容の紹介も興味深いものですが、共通して、猿橋賞を受賞したことによって広く認められるようになったという証言があり、猿橋賞の意義の大きさを感ずることができます。

高橋淑子教授ご執筆の「細胞の声を聞く - 動物の発生にみる形作りの研究」や、第4章の内容であるパネルディスカッション「猿橋勝子先生に学ぶ」（パネリスト＝赤松良子氏、塩満典子氏、坂東昌子氏、司会＝米沢富美子氏）など、興味深い内容が盛りだくさんです。

書籍貸出ランキング



働くおうちの親子ごはん

田内しょうこ 英治出版

- 2位 働くママ&パパの子育て110の知恵
保育園を考える親の会 医学通信社
- 3位 ダークレディと呼ばれて
二重らせん発見とロザリンド・フランクリンの真実
ブレンダ・マドックス 化学同人
- 3位 おーい父親 Part I 子育て篇
汐見 稔幸 大月書店
- 5位 理系の女の生き方ガイド 女性研究者に学ぶ自己実現法
宇野賀津子・坂東昌子 講談社ブルーバックス
- 6位 男女共同参画白書 平成21年版
内閣府男女共同参画局 日経印刷
- 7位 男装の科学者たち
一ヒュパティアからマリー・キュリーへ
マーガレット・アーリック 北海道大学出版会
- 7位 だから、男と女はずれ違う
最新科学が解き明かす「性」の謎
奥村康一他 ダイアモンド社
- 7位 忙しいパパのための子育てハッピーアドバイス
明橋大二・太田知子 1万年堂出版
- 7位 できれば幸せに働きたい 働く女の身の振り方
日本経済新聞生活情報部 日本経済新聞出版社
- 7位 こうして手にする仕事と生活の調和
(ワーク・ライフ・バランス) 取組みのヒントと企業事例
労働調査会出版局 全国労働基準関係団体連合会

第3回 テーマ「ワークライフバランス」①

情報科学研究科医療情報学・生体医工学・湊小太郎教授

ワーク・ライフバランス雑感

私は昭和22年生まれで評判の悪い団塊世代ですが、私より数歳年上のいわゆる安保世代は、教科書を墨で黒く塗りつぶした、戦後アメリカ民主主義の申し子です。知り合いのご夫婦は安保世代で、彼らが新築した家は、一階は居間と食堂、二階には寝室と書斎があります。寝室と書斎は夫婦がそれぞれ別々に全く対称な間取りに配置されていて、お互いの部屋を行き来するためには、必ず共有スペースの階段ホールを経由して、扉を二枚くぐる必要があります。別の友達はD.H. ローレンスの研究者ですが、ひとまわり年下の男性と結婚し、彼を一人前の研究者に育ててから離婚して、70歳の今も元気に飛び回っています。この世代の人々には、男と女は全く同じでなければならないという信念があるように思います。

団塊世代には、旧来の日本的風習の揺り戻しがあるようです。先日50年ぶりに小学校の同窓会をしました。物故者は圧倒的に男性が多く、出席者は11人対23人と女性が圧倒的でした。私が大学を出た頃は、4年制大学を卒業した学士女性にいわゆる就職先はほとんど無い時代で、女性が就職するなら短大でないといけなと言われていました。小学生時代の記憶では、教室を支配していたのは頭のよい何人かの女の子で、男の子は、勉強でも口数でも管理能力でも、たぶん体力でもほとんど太刀打ちできず、いつも彼女たちの指示に従っていたように覚えています。その刷り込みは還暦を過ぎても消えず、同窓会会場はおばさんの熱気に包まれていました。半数は孫の話、半数は30歳を超えた息子や娘のはなし。比較的多数の女性が専業主婦風の生き方をしためずらしい世代かもしれません。

私の息子や娘、研究室の男女の学生をみていると、女性は男性よりずっと広い視野で社会的可能性を意識しているように思います。たとえば、私の息子が、「小説家になりたい」とか「ミュージシャンで食いたい」とか言ったとすると、たぶん私の最初の反応は、「いったい何を考えているのか、そんなことでとても生きていけないよ」ということになりま。逆に娘が、「ピアノで身を立てたい」といっても、

「まあ、好きならやれるところまでやってみたら」と答えるでしょうし、「工学部に行って原子力発電所を造る」とか「弁護士になる」とか希望すれば、受験予備校の授業料を喜んで出すでしょう。実際は二人とも広い意味でのSEとして就職していますが、社会に出てからの生き方には、男性より女性の方が広い選択の自由があります。もちろん成功するか失敗するかは別問題です。

つまり私は、このような暗黙の男女の役割分担概念のしがらみの中にいます。現在は女性の方がステレオタイプにとらわれにくくなっていて、他方男性が、しかも若い男性が旧来の「男らしさ」の概念に縛られて動きがとれないように見えます。よい大学を出て世間に知られた企業に勤めて、周りに認められるようにがんばらねばならないと教えられています。すべての息子は、実はマザコンです。「男らしさ」の要求は母親としての女性の息子に対する期待に由来しています。旧弊の鉄格子にとらわれた男を解放するための「男性学」が注目される所以です。かわいそうな若い男性にこそ、男女共同参画の扉を開いてやってください。

少子化と高齢化は別々の課題です。子育ては夫婦の全く私的な問題で、政府がとやかく言う必要はないと私は思います。しかし、今後20年の人口構成高齢化にともなう就業人口の急減は日本社会の大問題で、少しでも就業人口の減少をマイルドにするために、男女とも就業して収入と消費を増やし、経済活動を支える必要があります。この点で、男女共同参画社会の実現は重要だと認識しています。安保世代も団塊世代も、女性はしたたかにワークとライフのバランスをとって生きてきました。男性も、世間の「男らしさ」圧力に押されながら、相方との間合いを横目で図りつつ、それなりにバランスをとっていたと思います。いつの間にかジェンダーの柵を抜け出て元気になった若い女性を見習って、若い男性にも自由を取り戻してもらいたいと考えているこの頃です。



お知らせ

けいはんな女性研究者ネットワーク

けいはんな女性研究者ネットワークは、けいはんな学研都市の女性研究者（技術者を含む）同士の交流の機会を提供し、ワークライフバランスの為に役立つネットワークを目指します。けいはんなで働いている、住んでいる女性研究者の方、以前、けいはんなで働いていた、勉強していた女性研究者の方も参加いただけます。

登録方法:ご氏名・所属・メーリングリスト用メールアドレスをご記入の上、メールにてお申し込み下さい。

E-mail: sankaku-jimu@ad.naist.jp

※詳しくは参画室HPをご覧ください。(URL: http://www.naist.jp/gender/contents/support/keihanna_network.html)

ワークライフバランス相談窓口

ワークライフバランスに関わる情報を提供しておりますので、お気軽にお越しください。

場 所: 学際融合領域研究棟2号館3階 男女共同参画室内

受付窓口: 男女共同参画室内受付または専用メールアドレス

受付時間: 月曜日～金曜日 10:30～12:00/ 13:00～17:00

T E L: 0743-72-5138

E-mail: wlb-soudan@ad.naist.jp

